

れた。「村長」だった法政大教授の湯浅誠(西丸)は事件当日、新聞の号外を手にしたことを覚えている。犯行の背景として派遣の境遇を指摘していた。「貧困と事件を結びつける視点は、それまでなかった。時代の変化を感じた」

アキバの惨劇は、豊かなはずだったニッポンの現実を明るみに出した。その後、子どもの貧困や下流老人、シングルマザーなど、貧しさの多様な「形」の認知も進んだ。

いま、子ども食堂の普及を目指す湯浅は「事件を契機に貧困と格差、不安定雇用が可視化された。社会問題と認識され、克服への官民の取り組みが始まった」と話す。「成果はこれから出る」

「そんな希望とは裏腹に、格差は拡大を続けている。それは「階級」として固定化したとの指摘まで広がっている」

秋葉原無差別殺傷事件は、格差や貧困がもたらす弊害を浮き彫りにした。事件が突き付けた、社会のひすみの「いま」を追う。

◇ (敬称略)

統合する」

ース拡散

、授業で作成か

「す」と明記したが、記事のページには注意書きがなかった。記事も学生が書いたとみられる。

最近になってSNS上で話題を呼び、「大学に聞いてもそんな話ないと言われた」「阪大は大阪の大学をどんどん吸収するつもりか」などの投稿があった。大教大は五月三十一日付で否定。このサイトも同日、経緯を説明し「関係者の皆さまにご迷惑をおかけしたことを深くおわびします」とする記事を掲載した。

に位置付けられる。連作の中では、英国の「テート」の収蔵品が有名。ピカソの絵画では「アルジェの女たち」が2015年に約1億7900万ドル(当時のレートで約215億円)で落札された。

れ、頬を涙が伝う。落札者は明らかにされていない。ナチス・ドイツによるスペイン北部、ゲルニカへの空爆に触発されて、ピカソが描いた代表作「ゲルニカ」(37年)にも、泣き叫ぶ女性が描かれており、その延長上

今回出品された作品は、愛人だった写真家ドラ・マールをモデルとする連作の1点。縦55㌢、横38㌢で、顔が大胆にデフォルメさ

ピカソ「泣く女」10億円 で落札 「国内競売で最高」

いう異例の高値で落札された。主催したアイアートは「国内を本拠地とする競売会社が行った競売では史上最高額」としている。

20世紀美術の巨匠、パブロ・ピカソ(1881~1973年)の油彩「泣く女」(39年)が2日、東京都渋谷区で競売に掛けられ、10億円と



10億円で落札された「泣く女」 2日午後、東京都渋谷区で

Lot.101
Pablo Picasso (パブロ・ピカソ)